

4. 不審者侵入防止と不審者侵入事故発生時の対応

1. 不審者侵入における事故防止について

<p>(1) 登下校時以外の校門の管理をする</p> <p>(2) 来校者のための出入口や受付を明示し、来校者は必ず受付を通るようにする その際、職員室を受付の窓口とする</p> <p>(3) 教職員による校内の巡視を定期的に行い、不審者の発見に努める</p> <p>(4) 生徒には、不審者（見たことのない人）を発見した場合には、教職員に連絡するように指導しておく</p> <p>(5) 校内に不審者がいた場合、複数の教職員で対応し、身分等を確認する</p> <p>(6) 警察などの関係機関と情報交換を密に行い、緊急時の対応について教職員間で共通理解を図っておく (事故発生の場合、110番通報を行う)</p> <p>(7) 児童生徒の安全確保に関し、職員会議などで取り上げるなどして教職員間で情報交換や共通理解を図る</p> <p>(8) 隣接する学校との間で、情報を提供しあう体制づくりを行う</p>
--

2. 緊急事態発生時の対処

※ 点検状況及び整備状況は、「防火管理台帳」（別紙）に記入し、防火管理の徹底をはかる

訓練時間	授業時間	授業時間	休憩時間
設定	地震による出火	特定場所からの出火	非常ベルにより出火を知る
重点項目	大地震発生により、判断の困難な場合の集団としての避難の仕方	災害に際して、基本行動がとれる。静かに、敏速に、安全に避難させる	非常ベルによって、その場で落ち着いて静かに避難体制にはいることができる
平常時の事前指導	学校で地震にあった場合、まず机の下にかがむ 災害の状況を知り、誘導に従って敏速に屋外に避難することを指導しておく	非常災害の場合の避難の方法を分からせて、集団として基本行動がとれるようにするための注意をする	学校で非常ベルが鳴ったときの基本行動を分からせる
避難時の行動	① 地震の場合は最も安全な方法はどうすることかを知って、素早く机の下に入る ② 指示に従って、屋外へ避難する ③ 口を結び、列を乱さず、自分勝手な行動はしない	授業中の場合、担任の指示に従って避難する 訓練であっても、真剣に行動がとれること 黙って押し合わずに、順序よく避難する訓練の大切さを知り、最後まで集団としての行動をとる	非常ベルの音と共に素早くその場に伏して情報を待ち、一番近くの避難集合場所まで移動し、誘導の指示を待つ 騒いだり、私語の無いように落ち着いた行動がとれること
留意事項	学級担任 突発的な災害発生であることを踏まえ、生徒たちの不安を和らげ、敏速な判断と行動をとる 放送など不可能な場合を考え、静かにさせること	生徒の掌握に努め、冷静な判断と行動をとる	平常において、学校内の防災設備（ベル、消火器、消火栓、バケツなど）についての理解に努め、保全に注意させる 非常ベルが鳴った時の行動を指導する
	係員活動 口頭による連絡を必要とするため、班をつくり徹底に努める	生徒の誘導の補助 消火隊到着までの初期活動に万全を尽くす	係ごと点検を行い、非常時に備える 消火訓練を行い、器具の扱いに慣れる